

Megaphone

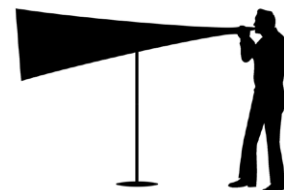


なぜメガホンと呼ばれるのでしょうか？

一番身近な拡声器であるメガホンは「Megaphone」であり、直訳すると「すごく大きな音声装置」となるのでしょうか。メガホンの「メガ」の次に大きいのは「ギガ」で、ギガの次に大きいのがテラですね。それ以上はペタ、エクサ、ゼタ、ヨタと続きます。

このことからメガホンより大きな製品を作る時は「ギガホン」になるのかなと考えていましたが、すでに他で採用されていました。さすがにその次の「テラホン」は商品名として出てこないようですが、ものすごく大きなメガホンの画像が見つかりました。

さらに大きな「ヨタホン」もないと思われましたが、調べてみると、スマートホンの名称として「ヨタフォン」が発売されていました。なので、メガホンは、やはり「メガホン」のようです。

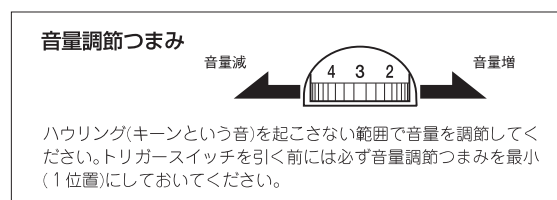


メガホンのハウリングについて

ハウリングのメカニズムについては他のページでもご説明していますが、メガホンは同じボディーにマイク、アンプ、スピーカーのすべてが揃っているので、ハウリングしやすい製品です。

「メガホンはハウリングしやすく、フルパワーを出すことができない」というご相談がありますが、当社の設計コンセプトをご説明します。

メガホンは乾電池を使いますので、使用するうちに電圧が落ちて音声パワーもダウンすることになります。ボリュームの位置が最大でハウリングしないように設計されているメガホンの場合、そこからは電池の消耗と共にパワーが落ちていくだけになります。



このような状態になった時でも、当社のメガホンではいまままでハウリングしていたボリュームの位置へ戻すことにより、引き続きハウリングする手前である、最大のパワーで使う事ができるのです。

メガホンは、ハウリングする少し手前が最大パワーの出ている状態ですので、当社のメガホンは、少しでも最大パワーを長く維持できるように、音量ツマミの設定を考えています。



昔のメガホン（昭和 39 年製）

左図は昭和 39 年の製品カタログに掲載されていたトランジスタメガホンです。

トランジスタという半導体を使ったアンプで増幅するメガホンで、トラメガとも呼ばれていました。

他にもアンプを使わず、カーボンマイクとスピーカー、電池の構成で動作するパワーメガホン（電気メガホン）というものがありませんでした。

3W ミニメガホン

Handyhorn

ハンディーホーン
TRC-3W

最大 4W 乾電池 ホイッスル
定格3W



現在のメガホン

TRC-3W はビデオカメラをイメージしたストラップを採用。グリップの必要がなく軽くて使いやすいミニメガホンです。2段音量のホイッスル機能も搭載し、コンパクトでメガホンらしくないデザインはすでに昭和時代にありました。

この製品名称は Handy phone ではなく、ホーンを表す horn の文字を使った Megaphone とは異なるコンセプトの **Handyhorn** です。

防滴スーパーワイヤレスメガホン

意匠登録第 1483403号

RoHS 防滴 IPX4 防滴 IPX5 最大 45W 定格30W DC 12V 乾電池 300 MHz PLL シンセサイザ ホイッスル
(マイク) (本体)

ワイヤレスチューナー内蔵
TWB-300

RainVOICER
digital
with Whistle



TWB-300 は大出力で防滴構造を持つ業界で初めてのメガホンで、雨の中でも安心してご使用頂けます。オプションの SD レコーダーユニットを組込む事でサウンドリピーターにもなり、パソコンから SD に保存したファイルを再生する事もできます。

また、オプションには Bluetooth® ユニットがあり、増設する事で、スマートフォンなどの音源を再生できます。デジタルアンプ採用により大出力で長時間駆動を実現しています。

TWB-300 はオプションユニットを追加すれば、最大コードマイク 2 本とワイヤレスマイク 2 本の合計 4 本のマイクを同時に使用することができ、音楽とのミキシング放送も可能です。